

(様式)

平成 26 年度 新技術導入経営改善実証展示ほ 成果情報

飼料用米における専用品種を用いた多収性実証

要約

収量は北陸 193 号と夢あおばが基準反収+150kg 以上となったが、北陸 193 号では倒伏や稲こうじ病の発生が見られた。品質では、タンパク含有率はホシアオバ、オレイン酸含量はもちだわらが高くなった。交付金の加算だけでなく収量増にもなるので、所得向上につながる。

○ 展示のねらい

新規需要米は飼料用稲を除き食用品種で対応してきたが、平成 26 年から水田活用直接支払交付金や産地交付金により、多収性専用品種を用いるメリットが出された。そこで、那須地域で最も収量が多く見込める新規需要米に対応した品種を実証することで、農家所得の向上を図ることとする。

○ 主な成果

品種名	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	収量調査			脱粒性	成分分析	
						粗玄米収量 kg/10a	倒伏程度 無0-基5	稲こうじ		タンパク 含有率(%)	玄米100g中の オレイン酸含 量mg/100g
夢あおば	7月28日	9月14日	87	20.7	292	729	1.5	少	難	7.7	736
ホシアオバ	8月3日	9月19日	104	21.1	244	691	3.8	中	やや難	8.0	627
クサホナミ	8月19日	10月15日	95	21.8	242	706	3.7	甚	難	6.6	542
北陸193号	8月9日	10月3日	87	28.6	249	810	3.7	多	中	7.3	740
もちだわら	8月8日	10月5日	81	25.2	185	648	1.5	中	中	7.7	810
あさひの夢	8月10日	9月27日	87	20.6	394	636	1.8	少	難	8.1	667

北陸 193 号が最も多くなり、810kg/10a と目標の 729kg/10a を 70kg ほど上回った。台風の影響で、ホシアオバ、クサホナミ、北陸 193 号で倒伏が見られた。稲こうじ病は品種間差が大きく、クサホナミで最も発生が多くなった。成分では、ホシアオバとあさひの夢が同等のタンパク含有率で、オレイン酸はもちだわらが高くなった。

	あさひの夢 (収量660kg/10a)	夢あおば	ホシアオバ	クサホナミ	北陸193号	もちだわら	(参考)主食用水稻
収入							
生産物	6,360 10円/kg	7,290 10円/kg	6,910	7,060	8,100	6,480	79,800 570kg/10a
交付金	89,519 基準反収579kg/10a	117,000 専用品種加算を含む	110,654	113,159	117,000	103,473	7,500
収入計	95,879	124,290	117,564	120,219	125,100	109,953	87,300
支出							
種苗費	4,122 あさひの夢試算	4,920 夢あおば試算	4,920	4,920	7,476	7,476	4,122 コシヒカリ試算
肥料費	9,060 BBファイト3袋	9,060 BBファイト3袋	9,060	9,060	9,060	9,060	16,068
農薬費	15,624	15,624	15,624	15,624	15,624	15,624	15,624
その他経費	43,444 収穫調整込み	43,444 収穫調整込み	43,444	43,444	43,444	43,444	43,444
支出計	72,250	73,048	73,048	73,048	75,604	75,604	79,258
所得	23,629	51,242	44,516	47,171	49,496	34,349	8,042

※支出は経営診断指標から一部引用した。

所得では、夢あおばが 51,242 円と最も高くなった。

○ 今後の方向性

一般の食用品種ではなく多収性専用品種であるため、集荷業者とのコンタミリスクを十分検討しながら、導入を進めていく必要がある。

実施機関： 那須農業振興事務所経営普及部 実施場所： 大田原市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315